

最高の授業

学校訪問の授業

先生方は、「今までの自分の授業で、一番うまくいった授業は、どんな授業ですか」と聞かれたら、何と答えますか。答えられますか。私はというと、数年前までは、「今まで何千時間と授業をしてきましたが、2時間だけうまくいったことがあります。一つは、学習指導案を用意しての研究授業、もう一つは、指導案なしの普段の授業です」と答えていました。しかし、今は、その2時間もあやしいと思うようになりました。勝敗でいうと、2勝何千敗、あるいは全敗、これが授業というものです。

さて、先生方は、「教員人生最高の授業」を目指したときがありますか。「常に、毎時間、目指しています」という先生もいるでしょう。本来、こうでなくてはなりません。しかし、実際には、なかなか難しいことです。授業は簡単ではありません。容易ならざるものです。

自分のことを振り返ってみました。「教員人生最高の授業」と意識したことはありません。それでも、今までよりはいい授業をしようと、何度も思ったことならあります。その機会の一つが「学校訪問」でした。

教員人生最高の授業をしてください

ある先生に「教員人生最高の授業をしてください」とお願いしたことがあります。その先生は、期待に応えるべく、努力してくれました。その授業では、生徒が生き生きと活動していました。収穫の多い授業でした。

やはり、目標を高くもつことは大切だと思います。目標を教員人生最高に設定するのとしなないのでは、最初から結果が違ってくると思います。20代の先生方は、「教員人生最高の授業」と言われても困るでしょう。それこそ、毎日の授業が、最高を目指した授業なのかもしれません。

一方、ある程度の経験年数がある先生方は、「教員人生最高の授業」を目指してはどうでしょうか。経験年数を重ねるごとに、授業力が向上し、力量をつけてきているとしたら、「学校訪問」の度に、「教員人生最高の授業」が更新されていくはずです。ところが、そうはいかないところが、授業の悩ましいところです。

一人も取り残さない授業

そもそも、授業がうまくいったかどうかは、自分ではよくわからないものです。授業の良しあしは、生徒を見るのが一番だと思います。生徒が、授業の中で見せてくれる「わかった」という目の輝きや反応、「できた」という笑顔、学習課題や発問に対して、じっくり考えている表情、ひたむきに自分の考えを書く様子などが、判断のめやすとなるでしょう。また、たどたどしくても、一生懸命自分の考えを話す姿、生き生きと自分の言葉で説明する姿などが見られれば、授業はいい方向に向かっているはずです。そして、学習課題の共書きや親密度の低い言葉の確認をはじめ、様々な手だてにより、一人も取り残すことがない授業になっていけばいいのではないのでしょうか。

6月26日（月）の学校訪問では、「教員人生最高の授業」を目指してみませんか。きっと、今までの学校訪問よりも収穫が多いはずです。何より、生徒が変わることでしょう。